

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	札幌市厚別区厚別東3条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0110510476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは住宅街にありながらも、周囲を自然豊かな環境に恵まれています。ホーム前の花畑や玄関周りに季節の花々を絶やさない様にして入居者さん、ご家族近隣の方々にも楽しんで頂ける様工夫しています。ミニ菜園で野菜を育て、散歩の時等に職員、入居者さん一緒に収穫をし、食卓を飾っています。行事等では、地域ボランティアを招いたり、地域の演芸大会を観覧に出かけたりしています。隣接するパウロ病院の行事にも参加し、夏祭り、花火大会にはご家族も参加され一緒に楽しんで頂ける様にしています。また、芋堀り、のど自慢大会にも積極的に参加され楽しい時間を過ごして頂いています。入居者さん、ご家族の要望を出来る限り取り入れ外出、外泊の支援も行っています。2階通路でパウロ病院と繋がっており、病院受診等がスムーズに行え体調の急変時や入院等の支援体制が整っており、ご家族の安心に繋がっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年10月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は札幌市郊外の閑静な住宅街にある3ユニットのグループホームである。自然豊かな環境の中、近隣にはバス停や中学校があり利便性にも恵まれている。3階建ての美しい建物で、母体病院と2階廊下で繋がっている。建物内部は広く、採光に恵まれ、快適と安全に配慮した造りである。職員は利用者1人ひとりに寄り添い支援している。内外研修会の参加や資格取得でスキルアップを図るなど日々研鑽し、良好なチームワークのもと質の高い介護を実践している。医療面では、母体病院に隣接し、看護師を配置し、健康相談、通院、入院などで連携していることから、本人や家族の安心に繋がっている。運営推進会議は町内会の役員や消防団員の出席があり、防災知識や地域情報を交換できる場として機能している。地域の人々とは、地域の演芸大会鑑賞や、母体病院中庭での「夏祭り」や花火大会で、共に楽しみ交流する機会があり、地域の中で、高齢者が「大切な命を守り元気で楽しく暮らせる」ように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスの際、「大切な命を元気で楽しい命に」を全員で読み上げ、理念の共有をし、それを基に個人目標を設定し、日々の介護に実践出来る様努めています。	理念は室内の要所に掲示し、カンファレンスの際全員で唱和している。新人職員も理解を得るように説明するなど、職員全員の共有を図り、理念を基に個人目標を設定し、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の母体病院主催の夏祭り、花火大会に地域の方も参加されており、そこでの交流や、地域での演芸大会鑑賞に行き交流があります。	隣接の母体病院主催の夏祭りや花火大会には、地域の人々が参加し利用者と共に楽しんでいる。地域の演芸大会鑑賞に出かけたり、地域の楽器演奏ボランティアを受け入れるなど近隣の人々との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さった地域の方々にホームの様子を報告する事で理解して頂ける様努め、また、地域の楽器演奏等のボランティアを受け入れ認知症の方への理解や支援をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議で事業所の行事、生活の様子、インシデントやヒヤリハット、防災の取り組みを報告し、意見を頂きその内容をカンファレンスを通して職員に周知し、サービス向上に努めています。	会議は定例に開催し、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、消防団が参加している。運営内容、行事、インシデントやヒヤリハットを報告し、出席者からは防災や地域情報などが出され、意見はサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市への届けには、直接市役所を訪ね事業所の現状報告をし、ケアサービスの取り組みを伝える事で、協力関係を築く様取り組んでいます。	行政担当課職員とは連絡、相談などで協力関係を築いている。市への届けに直接出向いたり、地域包括支援センター職員とは密に連絡をとっており、管理者は行政主催の会議や研修会参加で行政の意向を汲み取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体抑制は医師に関する指針を策定し、身体抑制適正化委員会を3ヶ月に1度以上開催しています。その内容をカンファレンス等で職員に周知しています。玄関、非常口、階段口は夜間のみ、様々なリスクと防犯上の事もあり、施錠しています。	マニュアルを整備し、身体拘束のないケアを実施している。「身体抑制適正委員会」を3カ月に1度開催し、研修を年2回以上実施している。職員は身体拘束の事例や具体的な行為を研修会などで話し合い互いに周知している。防犯上の施錠はあるが、閉塞感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日当法人作成の虐待、身体抑制、不適切行為のマニュアルの読み合わせを行い、また、外部研修参加の職員がカンファレンスで発表し、資料回覧等で認識を高めて、虐待のないホーム作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加しその後カンファレンスで発表、資料回覧等しています。日常生活自立支援事業、成年後見制度については、事業所内に資料があり、自主研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明に十分な時間を取り利用者、家族の理解や納得を得るように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、運営推進会議や来訪時に直接お話しや意見を聞き、ノートに記載して申し送りやカンファレンスにて共有し、運営に反映すべく努めています。	家族来訪時に直接話を聞き、内容を専門の「ノート」に記載し、申し送りやカンファレンスで共有し、家族の要望は運営に反映させるよう取り組んでいる。行事などは葉書で家族に報せているが、従来からの通信も発行予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は個人面談や月2回のカンファレンスで各職員の意見を聞き、それ以外にも提案があれば、その都度事業所の運営に反映させています。	法人代表者や管理者は職員との個人面談や月2回のカンファレンスで意見や要望を聞く機会があり、意見や提案は運営に反映させている。魅力ある職場環境となるよう職員の多様な意見を尊重している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムによる自己評価、面談を基に昇給体制をとり、各職員がやりがいや向上心を持って働ける様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われる研修や、外部の研修を受講出来る体制をとっている。職員は働きながら介護福祉士、介護支援専門員の資格を取得する人が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は厚別区のグループホーム管理者会議、ケアマネージャー会議、勉強会に参加している。職員は厚別区グループホーム合同研修に参加し、サービスの向上につながる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には極力見学をして頂き、面談を実施してご本人、ご家族から情報を得る様にしています。入居後は、安心して生活出来る様不安な事、要望等を都度伺い対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階でご本人、ご家族の話を十分に聞く他にセンター方式のシートやホーム独自のシート等に記入して頂き気持ちを理解して不安な事、要望に対してご家族との信頼関係を築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の話をよく伺って必要としている支援、要望に沿ったサービスを提供出来る様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、各入居者さんの出来る家事を手伝って頂き、その中で会話をしたり、時には、教えて頂きながらお互い支え合う関係を築く様努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来所時には、「暮らしのシート」を開示したり、近況報告する事で、日頃の様子を把握して頂いています。また、行事の案内をし、ご本人と一緒に参加して頂き職員、ご家族が共にご本人を支える関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問は自由にして頂いています。また、ご家族、知人の協力を得て、自宅や買い物にも行かれています。	家族や友人訪問時にはゆっくり寛げるように配慮している。家族との墓参り、買い物、自宅の庭の冬囲い、馴染みのメガネ屋さんに出かけるなど、馴染みの関係が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係性を大切にして席の配置を工夫したり、お茶、食事、アクティビティ等に職員も加わりコミュニケーションが取り易い様に調整、支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入院先の面会に行く等その後の状況把握に努めています。必要に応じ相談支援に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して、一人ひとりの思いを受け止め話を聞いて対応しています。また、表情や言動等から思いや意向を把握する様努め、カンファレンスで報告、検討しています。	日頃の関わりを通して、会話や表情から思いや意向の把握に努めている。アセスメントシートの記載や家族情報を参考にし、カンファレンスで情報を共有し、本人本位の暮らしになるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式等を活用し、ご家族に記入して頂いたものを活用、把握しています。また、毎日の暮らしの中からも把握する様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「暮らしの様子シート」や「個人記録」を活用して職員間で共有しています。変化が見られた際には、都度申し送り用紙に記入、口頭でも伝達し情報共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度見直しを行い、変化に応じてプランも見直ししています。ご家族にも情報提供し、意見交換を経て、介護計画に繋げています。毎月2回のモニタリングも行っています。	介護計画は本人、家族の希望を聞き、計画作成担当者を中心に、担当職員、医師、看護師、職員全員で協議している。毎月2回モニタリングをし、3カ月に1度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録用紙に生活の様子、バイタルチェック、食事量、排泄、体調変化等記録し、情報共有しています。また、ケアプランを毎日確認し活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活用し健康管理を行っています。個々の必要に応じて歯科受診や理美容等の様々なサービスを受けられる様に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力を得て、ご本人が心身共に豊かに生活出来る様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を利用して頂いています。ご家族が受診に付き添いの際には、ご本人の状況を説明し適切な医療が受けられる様配慮しています。	本人家族の希望する病院を受診するよう取り組んでいるが、隣接法人病院を希望されることが多い。他科受診時には家族と共に協力し、常に適切な医療が受けられるよう支援している。24時間体制で医療連携がとれる体制にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や見守りの中で、ご本人の体調の変化や状態を確認し、職員間で共有、把握しています。不測の事態の際は、看護師であるホーム長に連絡し、受診対応してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、支援に関する情報を医療機関に提出しています。ご本人、ご家族の支援も行い病院からの問い合わせには職員もスムーズに答えられる様努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入所相談時に医療連携体制についての説明と重度化した際に事業所が出来る事、支援の状況を説明しています。終末期には、ご本人、ご家族の意向を尊重した支援が出来る様取り組んでいます。	入居時に本人、家族と話し合い、重度化した場合の事業所のできる対応と医療連携体制について説明している。終末期には家族、医師、看護師、職員と情報を共有し、本人、家族の意向を尊重した支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや、緊急連絡網を作成し急変時や事故発生の際にも速やかに対応出来る様備えています。AEDも設置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、地域の消防団の協力をえて、年2回避難訓練を実施しています。また、防災センターで煙体験、地震体験等に参加しています。運営推進会議で地域の協力体制を築いています	年2回消防署員、消防団員の協力のもと避難訓練を実施している。水害時の垂直避難や地震時の対応など訓練し、避難経路を確認し、各種災害の防災マニュアルを整備している。隣接法人病院との協力体制を確認している。	震災体験から、改めて既存の防災マニュアルを整備している。停電時の暖房や調理対策に備品を買い足すなど、各種災害に備え準備しているので期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのその時々々の表情や状態に応じた対応や言葉掛けをしています。トイレや入浴の際には特に注意して対応しています。	利用者1人ひとりの人格を尊重し、職員は接遇マナーを学び対応している。利用者の個人情報取り扱いや書類保管に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの表情、仕草、言葉等から思いや希望をくみ取り自己決定出来る様に働き掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は設定していますが、一人ひとりのその日の体調や希望に沿った過ごし方をして頂ける様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にし、一人ひとりの好みを取り入れて更衣、整容が行える様に声掛けや見守りを行い支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事の際は一人ひとりの状態や好みを考慮してメニューを決定しています。入居者さんの状態に応じて手伝いをして頂き、テーブルを共にして同じ食事を楽しんでいます。	行事や誕生日には、利用者の好みや希望を取り入れてメニューを決めている。利用者は力量に応じ簡単な作業を手伝い、職員は利用者と共に食卓に着き食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に応じて食事量、水分量、形態に配慮して提供しています。飲み物は数種類用意し、希望の物を提供する事で、一日の水分量を確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に合わせた方法で口腔ケアを行っています。異常があったり、ご本人の訴えがあれば歯科受診しています。また、定期的な歯科受診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、定時にトイレにお連れしたり、パッド確認をしています。状態に応じてリハビリパンツやパッド等使い分けて、自立に向けた支援をしています。	記録などから排泄パターンを把握し、適時にそれとなく誘導し、トイレでの自立排泄に取り組んでいる。夜間はポータブルトイレを使用する時もある。紙パンツから布パンツに移行した例もあり、トイレでの自立排泄を目指し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を心掛け、食べ物にも気を配っています。一人ひとりの体力に応じて運動、散歩等行い、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しく入浴出来る様各入居者さんの好みに応じた湯温、時間、声掛けのタイミングに配慮しています。気分の乗らない方には、無理強せず、翌日に再度声掛けする等の配慮もしています。	入浴は週2回実施であるが、利用者の希望やタイミングに合わせている。浴室は広く窓からの景色を楽しむことができ、隣接法人施設の温泉水を入れたり、ゆず湯にするなど、楽しめるように工夫している。安全面や清潔にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、昼寝も含め安心して眠る事が出来る様温度や湿度等の環境調節や寝具の選択を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報をファイル把握し、症状の変化を観察しています。服薬前後は2名の職員で名前の確認をし、服薬時はご本人と確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食器拭き、トレー拭き、たたみもの、掃除、食事の下ごしらえ等に携わって頂き、張り合いや喜びを感じて頂ける様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調、ご本人の気分等を考慮して、散歩、買い物等に出かけられる様に支援しています。花見や紅葉狩り隣接のパウロ病院での夏祭り、花火大会にもご家族共に参加出来る様支援しています。	日常的には玄関前のベンチで寛いだり、菜園や花の手入れで外気に触れている。花見や紅葉見物に出かけたり、地域の演芸大会や工場見学も行っている。隣接法人病院での夏祭りや花火大会には家族と共に参加するなど、利用者が生活を楽めるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じてお金を所持し、病院受診時に売店等で自由にお金が使えます。また、ご家族からお小遣いを預かり買い物を希望される際は、同行して支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方との手紙のやりとりや電話を希望される時にはホームの電話を取り次ぐ等の支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近の写真や行事の際の写真、季節毎の飾りつけ、入居者さんと一緒に作った作品等展示し、居心地良く過ごせる様工夫しています。また、照明、テレビの音量、室温等不安感や混乱を招かない様細目に調節、配慮しています。	リビングは広く、明るく、食事テーブルの他にゆっくり寛げるソファを配置したコーナーがある。陽射しの良い窓際には鉢植えの花や観葉植物が置かれ、壁には季節感のある利用者の作品や行事写真が飾られている。窓からの眺めは心を和ませ、室内の採光、温度、湿度、換気も適切で、快適な居住空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とワークスペースにはテーブルとソファを配置し、一人ひとりが思い思いの場所でくつろげる様に配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで頂いたり、好みの花等を置いて安心して居心地良く過ごせる様配慮しています。	居室入口には飾りケースが設置され、好みの人形や置物を飾っている。利用者は使い慣れた家具を持ち込み、家族写真や好きなスターのポスターを貼るなど、居心地良く過ごせるように工夫している。広いクローゼットがあり、程よく整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーの造りで歩行が不安定な方にも配慮して、廊下、トイレ、浴室に手すりが設置してあります。居室には表札、トイレ、浴室も表示をして分かりやすい様にしています。		